

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

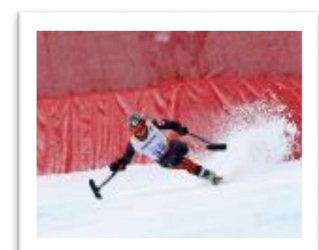
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

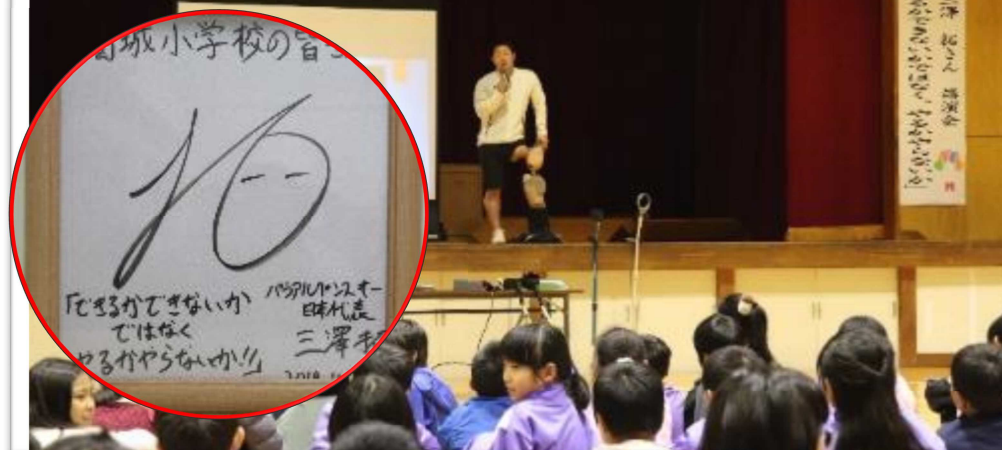
道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 つくば市立葛城小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
2 実施対象 (学年・人数)	4年生 74名 5年生 41名 6年生 24名 保護者, 地域の方(希望者) 7名 教育委員会・大学関係者 5名
3 展開の形	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 (オリンピック・パラリンピック教育講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○競技者の話を聞くことを通して、スポーツを楽しむとともに、夢に向かって頑張っていくことが大切であることに気付く。 ○オリンピック・パラリンピックに係る人々(競技者, 運営者, ボランティア, 観戦者)等のつながりについて考える。 ○他者とともにやさしくしなやかに生きていくために必要な力を身に付けさせる。
5 取組内容	○事前学習 ・5年生は、外部の方から説明を聞く機会も設けたほか、パラリンピックの歴史や競技種目について、本やコンピュータ等で調べ、まとめた。 ・6年生は、オリンピックの歴史や行われている競技等について調べ、まとめた。 ・5, 6年生がまとめたものを体育館に掲示し、4年生から6年年生で情報を共有した。 ○オリンピック・パラリンピック教育講演会 ・演題 「できるかできないかではなくやるかやらないか」 ・実施日 令和元年11月27日(水) ・時間 14:00~15:00 ・会場 本校 体育館 ・講師 三澤 拓 氏 トリノから4大会連続でパラリンピックに出場。2010年バンクーバー大会では、回転で6位に入賞。ワールドカップにも多数出場し、今も現役でトレーニングを重ねている。



Education Programme (2020-21) 2019年度 Education Programme (2020-21) **オリンピック・パラリンピック教育講演会**



- 事後の活動（振り返り） ↑ 子供たちの作成した掲示物
- ・アンケートを実施し、以下の4点について、講演会の前後での気持ちの変化を整理し、感想をまとめる。
 - ①オリンピックについての興味
 - ②パラリンピックについての興味
 - ③将来、オリンピックやパラリンピックにボランティアや応援などに行ってみたいと思う気持ち
 - ④これから行われるオリンピックやパラリンピックのイベントに参加したいと思う気持ち

6 主な成果

○児童のオリンピック、パラリンピックへの理解が進み、興味・関心が高まった。【アンケート結果】

①オリンピックについての興味

	高まった	変わらない	低くなった
割合	66.2%	33.8%	0%

②パラリンピックについての興味

	高まった	変わらない	低くなった
割合	78.7%	21.3%	0%

③ボランティアや応援などに行ってみたい

	高まった	変わらない	低くなった
割合	55.1%	44.9%	0%

④オリンピックやパラリンピックのイベントに参加したい

	高まった	変わらない	低くなった
割合	60.3%	39.7%	0%

○パラリンピアンのお話を聞くことを通して、スポーツを楽しむとともに夢に向かって頑張っていくことが大切であることに気付くことができた。また、やさしさと思いやりをもって生きていこうとする気持ちが高まった。【アンケート・自由記述より：○数字は、学年】

	<p>④ちょうせんを続ければ、いつかは成功できるかなという気持ちがとても強くなった。これからのオリンピック・パラリンピックが楽しみです。</p> <p>④三澤選手は6才のころに片足をなくしてしまったのに、スポーツなどで活躍していてすごいと思いました。わたしも、三澤選手みたいにがんばりたいと思いました。</p> <p>⑤体の一部が不自由でも、「やってみる」とか、「できる」とか思うのが、とてもすごいと思いました。もし、私が足が不自由だったら、すぐにあきらめてしまうと思います。また、「もし、あきらめなかったらできたかもしれない。」などと深く考えることができました。修学旅行のパラリンピックが楽しみです。</p> <p>⑤ぼくの将来の夢は、水泳選手になってオリンピックで金メダルを取ることです。だから、いっしょうけんめい練習を頑張っています。三澤選手みたいに世界でかがやけたらいいなと思います。</p> <p>⑤体に障害があっても、できることはたくさんあると知ることができた。パラリンピックに出ている選手をもっと応援したいと思った。</p> <p>⑤三澤選手は動画の中で「失敗したら？」という質問に対して「チャレンジする。」と言っていたところが心に残った。</p> <p>⑤これから先、不自由な人を手伝う等ボランティア活動をしていきたい。</p> <p>⑥何事にもあきらめず、ねばり強く生きている三澤選手の姿に感動しました。私もあきらめず、ねばり強く今できることを精一杯やっていきたい。</p> <p>⑥想像は、現実とは全くちがう時があるので、きめつけないでチャレンジするのは大切だと思いました。「すごい」はできないからそう思うんだと改めて感じました。</p> <p>○三澤さんの講演の中で、オリンピック・パラリンピックに係る人々等のつながりについて考えることができた。</p> <p>⑥三澤選手は、海外生活を支えてくれる人がいて、たくさんのライバルや応援してくれる仲間もいて、すごいと思った。</p> <p>○5年生保護者への広報活動ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館に掲示したオリンピック・パラリンピックで調べた掲示物を、翌日の5年生親子活動日まで掲示しておくことで、講演会に参加しなかった5年生の保護者の方にも、オリンピック・パラリンピック教育の一端を見ていただけた。そのため、翌年の修学旅行についての理解も進んだ。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○自分の興味・関心に応じてオリンピックやパラリンピックの種目を調べた上で講演会に参加することで、集中して聞くことができた。</p> <p>○特に、5年生においては、修学旅行や福祉体験と関連させながら学習していくように計画を立てた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○児童のオリンピック、パラリンピックへの理解が進んだことが実感できるよう、単発的な講演会で終わらせず、さらなる活動を計画する。特に、車いすの体験やその他の福祉活動との関連を図りながら進めていくようにすること。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○令和2年9月の修学旅行には、東京パラリンピック(車いすバスケット)を見学の予定。</p> <p>○社会福祉協議会との連携による福祉体験を計画し、実行する。</p> <p>○東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、集会での啓発活動等にとどまらず、校外における各地のイベント等を紹介し、積極的に参加できるようにする。</p>

